

# 社会資本総合整備計画

# 事後評価書

平成30年8月

計画の名称	7 富山駅を中心とした都市拠点の整備											
計画の期間	平成24年度～平成28年度（5年間）					交付対象	富山県					
計画の目標	北陸新幹線の整備にあわせ、富山県の県都の玄関口としてふさわしい、賑わいのある魅力ある駅周辺の整備を行う。											
計画の成果目標（定量的指標）	北陸新幹線の整備にあわせ、在来線の高架化を実施することにより富山駅周辺の歩行者交通量を、約28,000人（平成22年度）から約32,000人（H28末）に増加する。											
定量的指標の定義及び算定式									定量的指標の現況値及び目標値			備考
									当初現況値 (H23末)	中間目標値 (H26末)	最終目標値 (H28末)	
	富山駅周辺の調査6地点の歩行者交通量（休日）								28,000人	30,000人	32,000人	
全体事業費	合計 (A+B+C)	13,038 百万円	A	12,982 百万円	B	0 百万円	C	56 百万円	D	0 百万円	効果促進事業費の割合 C / (A+B+C+D)	0.4%
事後評価（中間評価）												
○事後評価（中間評価）の実施体制、実施時期												
事後評価（中間評価）の実施体制						事後評価（中間評価）の実施時期						
富山県土木部都市計画課						平成30年8月 公表の方法 富山県ホームページ						
2. 事業効果の発現状況、目標値の達成状況												
I 定量的指標に関する 交付対象事業の効果の発現状況			<ul style="list-style-type: none"> <li>在来線の高架化に伴い、駅周辺の整備が行われ、魅力が向上した。</li> <li>路面電車が高架下まで乗り入れが可能になったことで、公共交通の接続の利便性が向上した。</li> </ul>									
II 定量的指標の達成状況		指標①（富山駅周辺の調査6地点の歩行者交通量（休日））	最終目標値	32,000人	目標値と実績値に差が出た要因	北陸新幹線が開業したことにより、観光客が増加したためと想定される。						
			最終実績値	36,246人								
III 定量的指標以外の交付対象事業の効果の発現状況（必要に応じて記述）												
3. 特記事項（今後の方針等）												
連続立体交差事業については、在来線の上下線は高架供用したが、下り線は現在施工中である。今後も引き続き、一日も早い完成を目指して事業を着実に進めていく。												

(参考図面)

計画の名称	7 富山駅を中心とした都市拠点の整備	交付団体	富山県
計画の期間	平成24年度～平成28年度（5年間）		

